

ICTを効果的に利活用した学力向上の取組について

鹿追町立鹿追中学校 学級数8 (校長 池田 哲)

I 趣旨・実践の概要

新型コロナウイルス感染拡大に伴う長期にわたる臨時休業は、教育活動全体に甚大な影響を及ぼした。この非常事態に対応するため、本校では学校教育の本質的な意義を再考し、「令和の日本型学校教育」の構築を進めなければならないと考えた。

特に、ICT機器が教育に及ぼす効果を最大限に利活用しながら、学習指導要領に示された生徒の資質・能力の育成を着実に進め、「個別最適な学び」及び「協働的な学び」の実現に取り組んできた。

II 実践内容

1 ICT専門チームの設置

今年度、校務分掌の見直しを図り、ICTを専門的に担う担当部署を分掌に位置付けたことにより、ICTを利活用した授業改善や業務改善に向けた改革を本格的に着手する基盤が整った。さらに、鹿追町教育委員会の支援のもと、大容量通信が可能となるWi-Fiや各教室（特別教室含む）の大型モニター、Apple TVが設置され、授業改善を促す教室環境が整備された。

2 具体的な活動内容

(1) WEB評価システムの導入

本年度、鹿追町の支援を受け、町独自に学力調査を導入した。この調査の「WEB評価支援システム」により、スピーディーに結果が分析され、授業改善につなげることができた。また、生徒一人一人の結果に基づいた復習教材を活用するなど、個別最適化された学力向上の手立てを講じることができた。WEB評価支援システムの導入により、検証・分析にかかる時間が短縮され、調査後の指導に重点を置くようになった。

(2) 読解力向上アプリの導入

まとまりのある文章を読んで理解する能力を育成するため、昨年度から、読解力を育成するためのアプリを活用し、週1回程度朝学習の時間に取り組んだ。このような継続した取組の結果、全国学力・学習状況調査の読むこと領域において、全国平均を大きく上回る結果となった。

(3) Google Classroomを活用した家庭学習支援

Google Classroomの使い方について年度始めに校内研修を実施し、授業や家庭学習での利活用について全職員で共通理解を図った。生徒は、家庭に持ち帰ったiPadでGoogle Classroomにアップロードされている課題を家庭学習として取り組んだり、試験問題の解説動画や、保健体育や部活動等の動画を繰り返し見たりするなど、主体的に学習を進めている。その他、連絡事項や学級通信等をデータで送付することにより、職員の印刷業務の軽減や大幅なコストダウンが実現された。



【iPadを使う授業風景】

(4) Forms、マチコミの活用

生徒による授業評価アンケートや各種集計作業は、Formsを活用することで、瞬時に集計・分析することが可能となり、授業改善の資料として活用している。また、マチコミは保護者あての文書を配信するだけでなく、タイムラインで学校や部活動の大会の様子を配信し、生徒の様子をいつでも見ることができることから、保護者から好評を得ている。

(5) 文化祭のオンライン配信

文化祭では、来場者の入場数制限があったものの、オンライン配信を同時に行い、他学年を含め全ての演目をスマートフォン等で参観してもらうことができた。

III 成果と課題

- ICT専門チームを設置したことにより、情報主任を中心とした全教職員による情報共有と共通理解が図られ、様々な場面での活用が促進され、教育活動の質の向上につながっている。
- 生徒、教職員、保護者等にとってICT機器が「便利なツール」として認知されたことにより、教育活動全体の効率化が図られている。
- Society5.0時代の到来や「令和の日本型学校教育」の実現のため、教師のICT活用能力の向上が更に必要となることから、効果的な端末等の運用のためには、地域人材活用や民間企業との連携を進める必要がある。
- 生徒は毎日iPadを家庭に持ち帰ることになるため、家庭内のルール作りなど、家庭の情報リテラシー向上の支援体制の構築や、校内の情報リテラシー教育の充実が一層重要となる。